



Shall Weランチ？


～非公式コミュニケーション活性化～

free株式会社 ムーブメント研究所

背景

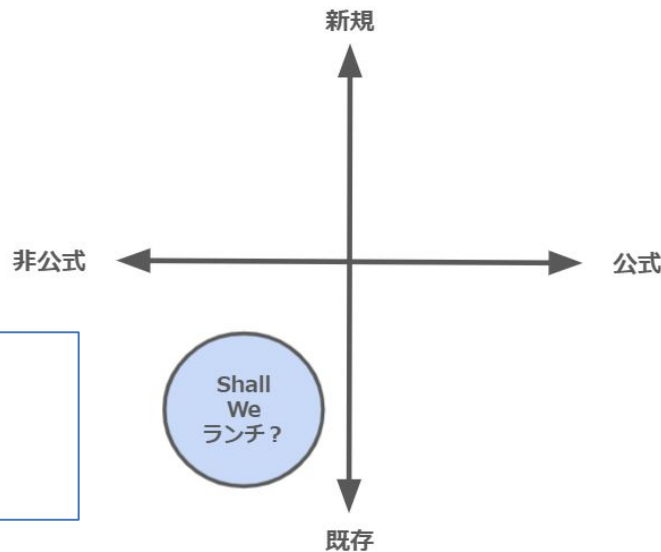


1. Google Meetやgoogle docsなどツールが揃っており、既存のミーティングをオンラインに置き換えることは難しくなかった
2. 一方、フルリモート後は業務でやり取りする人やチーム内にコミュニケーションが偏りがちになった
 - a. オフィスですれ違った時にちょっと話していた人、夜ふらっと飲みに行く仲の人との **非公式なコミュニケーション**量が下がっているという課題



チームを超えた
仲間を持つことで
ワクワク感や帰属意識が高まったり
アイデアの火種が生まれたり
と
たくさんの効果

オフィスにいれば自然とできていたことがリモートになると難しい…
そこではじまったのが
「Shall We ランチ？」



Shall Weランチ？とは



ランチ代補助でチームや業務に関係なく同僚とリモートでランチ！

- ★ フルリモート勤務が始まって2か月後の2020年5月からスタート！
- ★ freeで働く全雇用形態が対象！

やり方

1. Google スプレッドシートにランチするメンバーの名前と実施日を2営業日前までに記入し申請
2. ムーブメント研究所から当日までに申請者にUber Eats ¥1,000分のギフトチケットを配布
(Uber Eatsエリア外の場合、直雇用のみ¥1,000まで経費精算可能)
3. Google Meet or バーチャル会議ツールRemoを使ってオンラインランチ



あえて、共有する



人を知り・そして自分のことも知られる、価値基準を体感する機会の一つに

- ★ Shall Weランチ?を使う際、Workplace(社内SNS)に「#ShallWeランチ」のハッシュタグを付けてランチメンバーと撮った写真を投稿



あえて、共有する

人とチームを知る。
知られるように共有する。
オープンにフィードバックしあうことで
一緒に成長する。



※あえて、共有する

お互いがオープンに共有し合うことで、コミュニケーションが生まれ信頼関係の構築へとつながっていく
その結果、オープンにフィードバックできる関係性が生まれ互いに成長していくことができるというfreeの価値基準の一つ

フルリモートで入社したメンバーの交流の場



フルリモート勤務が長期化し、フルリモートで入社したメンバーも増加

フルリモート入社研修について2020年7月に行ったオンライン座談会で見てきた課題もインフォーマルな部分だった

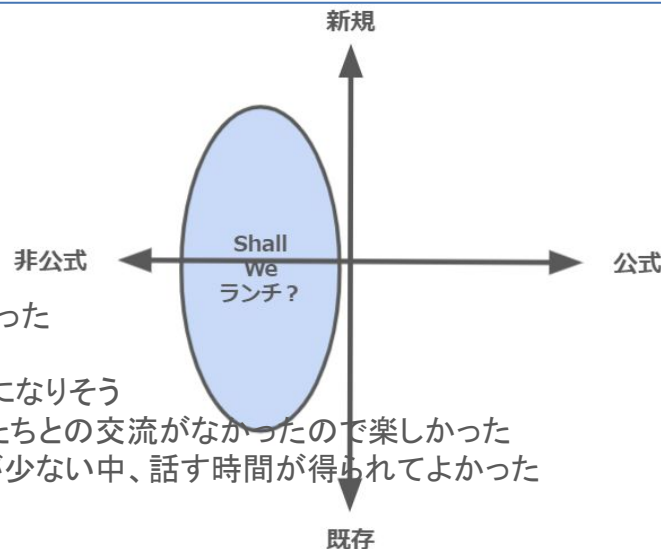
フルリモート入社者の声

- 対面だったら研修と研修の合間にちょっとお手洗い休憩がある時に何か喋って打ち解けていくとか、信頼感とか帰属意識が醸成されるところがあると思うが、そこがなくなった。知識は入ってるけど、味気ない感じになっていく
- 聞いたことをアウトプットして、そこで知識がスッと入ってくる部分であると思っていて、そういう環境をリモートの中で出せたらすごい

座談会をもとに、現在は入社研修でShall Weランチ？を取り入れている

研修後のアンケートで寄せられた声

- 同期がいると心強い。いろんな部署のことを知れる
- 他部門の人とのネットワークを作る機会として貴重
- リモートになってから中々できない雑談など気軽にできて楽しかった
- 同期といろいろ話ができて、不安も和らいだ
- とても心温まる機会だと思った
- リモート環境で同期のこと、および、入社後の状況を共有することができてよかった
- リモート入社だと同期と交流機会が少ないので、今後も続けてほしい
- 今後freersの一員として働いていくために、同期がちょっとした心のよりどころになりそう
- 入社してから業務範囲での人の交流は行えていたが、同時期に入ってきた人たちとの交流がなかったので楽しかった
- 同期とは言え、部署も違いリモートであるためにコミュニケーションをとる機会が少ない中、話す時間が得られてよかった



全社調査で組織カルチャーの共感84%



価値基準を日常のものに

リモートワークで働いてきた中で、やっぱりカルチャーも薄まってしまっているのではないか？

不安もある中、昨年12月に実施した年1回の全社調査である Astrolable

リモートになっても一体感を醸成するためにShall Weランチ？をはじめ、多くのコミュニケーション設計にトライしてきた結果、**組織カルチャーの共感84%**と例年を下回らない高水準

「全員オンライン」で距離が縮まった部分

フルリモートになる前は、同じ部署に所属していても東京と大阪など勤務地が異なるメンバーとの非公式なコミュニケーションの場は多くなかった

しかし、「全員オンライン」ならではの参加しやすさを活かすことで新しい非公式なコミュニケーションの場が生まれ、メンバー間の距離が縮まった部分もある

在宅勤務体制が今後どのように変化していくべきなのかまだ社内で答えは出ていないがどんな環境でもコミュニケーションの場は形成されるし作っていく組織でありたい

